



「憲法の意味がなくなる」と訴える南野教授
= 4日、福井市のフェニックス・プラザ

憲法「危機的な状況」

福井でシンポ 九大教授ら講演

福井弁護士会のシンポジウム「憲法って、何だろう？」福井新聞社後援が4日、同市のフェニックス・プラザで開かれた。九州法学部の南野教授が講演し、集団的自衛権行使

を容認するため、憲法解釈の変更を閣議決定した安倍政権の手法について、「これを認めればほかの憲法も解釈変更が可能になり、政府の権限を縛る憲法の意味がなくなる」とあらためて憲法の意義を訴えた。

10月に同会などが福井市で開く「第59回日本弁護士連合会人権擁護大会」に向け、県民に憲法について学んでもらおうと企画した。

南野教授は歴代政権が集団的自衛権行使を蔡じてきた歴史を振り返り、安倍政権の解釈変更について「非常に巧妙なやり方」と指摘した。その上で、憲法解釈が変わるのは当然という感覚が国民に浸透することを危惧。「危機的な状況にある。憲法を守れという声を上げ続けなければならない」と訴えた。

続いて学生団体「SEALDs（シールズ）」の本間信和さんが、学生らが立ち上がった経緯について語った。

（川上桂）